

礼拝堂聖別式

礼拝堂を聖別するとき、あらかじめその敷地、建物その他属物件について負債のないこと、および聖公会の所有に属することを証明する書類を添えて教区主教に願い出なければならぬ。主教は支障のないことを認めたとき、日を定めてこの式を行なう。当日会衆は堂の外で主教と他の聖職を迎え、教会委員の一人は主教に言う。

師父よ、この堂を聖別せんことを願う

主教は言う。

願いのごとくこの堂を聖別すべし。愛する兄弟よ、父と子と聖霊なる全能のかみわれらとともにいまして、我らのささぐるこの堂をきよめたまわんことをいのるべし

主よ、変わらざる恵みにて我らにさきだち、絶えざる助けにて我らをともない、何事をなすにも始めより終わりまで主にたより、御名の栄光をあらわし、ついに限りなき命の至ることを得させたまえ。主イエスキリストによりてこいねがい奉る。アーメン

主教は他の聖職とともに次の詩を歌いまたは唱えながら堂の外側をめぐる。入口で歌いまたは唱えてもよい。詩の前に司式者または始唱者は次の語を用い、栄光の頌の後に馳これら一同で用いる。以下詩百二十二篇、詩五十一篇もこれにならう。

神の恐るべきさまは、その聖所よりあらわる

詩六十五篇

父と子と聖霊に、栄光あれ
始めにあり、今あり、世々限りなくあるなり。アーメン

神の恐るべきさまは、その聖所よりあらわる

次に主教は堂の入口に立って言う。

とこしえにいます全能の神よ、主のいまさざる所なく、主の働きたまわざる所なし。願わくは主の建てたまひしこの堂をまもり、悪の力を退け、常に聖霊の働き

によりて御心にかのう礼拝をささぐることを得させたまえ。主イエスキリストによりてこいねがい奉る。アーメン

主教は牧杖の石突きで堂のとびらを三度たたいて言う。

門よ、なんじらのこうべを挙げよ。とこしえの戸よ、あがれ、栄光の王いりたまわん

執事または教会委員の一人、堂の内から言う。

栄光の王はたれなるか

主教は言う。

力を持ちたもうたけき主なり、戦いにたけき主なり。万軍の主、これぞ栄光の王なる

主教はまた言う。

開けよ、開けよ、開けよ

執事または教会委員は内からとびらを開いて言う。

これぞ主の門なる。正しき者の内にいるべし

主教は牧杖で入口に十字架の形をしるして言う。

平安この堂に、又すべてここに入る者にあらんことを、父と子と聖霊の御名によりて。アーメン

次に左の詩を歌いまたは唱えながら、主教と他の聖職は聖所の入口まで進む。会衆はこれに従って堂に入る。詩の前後に次の語を用いる。

ほむべきかな 主の御名によりてきたる者

詩百二十二篇

父と子と聖霊に 栄光あれ
始めにあり、今あり 世々限りなくあるなり。アーメン

ほむべきかな 主の御名によりてきたる者

主教は聖所の入口にひざまずく。他の聖職はその左右に、会衆はその席についてひざまずく。
主教と会衆は交互に次の聖歌の各節を一小節ずつ歌いまたは唱える。

聖霊を求むる歌

一 みたまよきだりて ながつくりましし
ころろにめぐみをあふれしめたまえ

二 なのたまものあぶらをそそぎて
いのちのいずみをひらきのましめよ

三 ころのくらしきをてらしみちびきて
けがれもはじをもとりのぞきたまえ

四 わがうちにやどりやすきをたもたせ
そとべよりおそうあたをふせぎてよ

五 ちちみこみたまのみつのくらいなる
ひとりのみかみをさとしめたまえ

六 ちちみこのおくるみたまみちびけば
かみのみさかえをとこしえにうたわん
アーメン

次に主教の指名した司祭が一同とともに嘆願を歌いまたは唱える。
天下の聖公会のための願いの後に、主教はたつて左の願いを加える。

主教 願わくはこの堂を祝し、御使いに命じて守らしめたまわんことを
会衆 主よ、ききたまえ
主教 願わくは御名の栄光のために、この堂と祭壇を祝しきよめたまわんことを

会衆 主よ、ききたまえ

ここで主教はひざまずき、司祭は嘆願をつづける。嘆願が終わって一同立つ。主教と他の聖職は次の詩を歌いまたは唱えながら堂内を一巡する。詩の前後に次の語を用いる。

主よ、ヒソプをもて我をきよめたまえ、さらば我きよくならん 我を洗いたまえ、さらばわれ雪よりも白くならん

詩五十一篇

父と子と聖霊に 栄光あれ
始めにあり、今あり 世々限りなくあるなり。アーメン

主よ、ヒソプをもて我をきよめたまえ、さらば我きよくならん 我を洗いたまえ、さらばわれ雪よりも白くならん

主教は再び聖所の入口に行き、会衆はひざまずく。

主教 主なんじらとともにいますことを
会衆 主なんじの霊とともにいますことを
主教 我ら祈るべし

御名のためにささぐる物を清めたもう神よ、願わくはこの堂に恵みをくだし、主の御名を呼ぶすべての者を助けたまえ。御子イエス・キリストによりてこいねがい奉る。アーメン

天地万者を統べたもう至聖なる父・全能の神よ、願わくは主の大いなるいつくしみにより、聖なる奥義を行なわしめんとして、三位一体の栄光のためにたてしこの堂を聖別し、御光をもつて照らしたまえ。願わくはこの教会の信徒をまもりて公会の信仰を堅く保たせ、御名の栄光をあらわすことを得させたまえ。父と聖霊とともに一体の神にましまして世々統べ治めたもう御子・我らの救い主イエス・キリストによりてこいねがい奉る。アーメン

ここで会衆は立つ。

祭壇の聖別

主教は祭壇に行きながら次の語を唱える。

われ神の祭壇にゆき、またわが喜びよろこぶ神にゆかん

主教は会衆に向かつて言う。

愛する兄弟よ、全能の神、我らの祈りを聞こし召し、聖なるいけにえのためにこの祭壇を清め、主のしもべらのささぐる供え物を聖別したまわんために、また主イエスキリストの御名によりてささぐる祈り、香の煙のごとく御前に昇らんために祈るべし

主教 主なんじらとともにいますことを

会衆 主なんじの霊とともにいますことを

主教 なんじらこころを挙げよ

会衆 我ら心を主に挙げん

主教 主なる神に感謝し奉るべし

会衆 そは正当にしてなすべきことなり

主教は次の言葉を歌いまたは唱える。

至聖なる父・とこしえにいます全能の神よ、いついずこにても主に感謝し奉るは、正当にしてなすべき務めなり。我らは卑しきしもべなれども、御名の栄光のためにこの祭壇をささげ奉る。願わくはこれを祝し、きよめ別かち、我らの供え物とともに感謝賛美のいけにえを受けたまわんことをこいねがい奉る。また我らの救い主イエスキリストのからだと血の聖奠にあずかり、みな恵みと力とに満たされ、限りなき命をうるに至らせたまわんことを、父と聖霊とともに一体の神にましまして世々統べ治めたもう御子・我らの主イエスキリストによりてこいねがい奉る。アーメン

次に十字架、燭台その他祝福すべき物があれば、主教はそれらを祝福して祭壇に置かせる。

洗礼盤の聖別

主教は他の聖職を供い洗礼盤に行きながら次の語を唱える。

川あり、その流れ神の三井や子を喜ばしめ、いと高き者の住みたもう聖所をよろこばしむ

主教 なんじら全世界を巡りて

会衆 すべての人に洗礼をほどこせ

主教 我ら祈るべし

全能の神よ、願わくは我らのささぐるこの洗礼盤をもさなわし、聖霊によりてこれを清め、ここにて洗礼を受くる者を洗いきよめ、主のあわれみによりて、すべての罪の赦しを受くることを得させたまえ。主イエスⅡキリストによりてこいねがい奉る。アーメン

洗礼を受くる者のため

もろもろの徳と恵みの源なる全能の神よ、願わくは御名の栄光のためにこの洗礼盤をきよめ、ここにて信仰を告白し、生まれかわりの洗いを受くる者に限りなき命を得させたまえ。御子イエスⅡキリストによりてこいねがい奉る。アーメン

聖書台および説教壇に聖別

主教は補式聖職を供い聖書台および説教壇に行きながら次の語を唱える。

我なんじのさとしを語り、なんじの道に心をとめん

主教 なんじの御言葉はわが足のともしびなり

会衆 わが道の光なり

主教 我ら祈るべし

575

全能の神よ、主は真理をもつてしもべらの心を照らしたもう。願わくはこの聖書台と説教壇を祝し、ここに立つ者に知恵、悟り、深慮の霊をみだし、御力を与えて、とこしえの命の福音を宣べ伝えることを得させたまえ。また願わくは教えを受くる者を恵み、御言葉を悟り、ついに、我は道なり、命なりとのたまひし主のみもとに至ることを得させたまえ。我らの主イエスⅡキリストによりてこいねがい奉る。アーメン

主教は補式聖職とともに至聖所の入口に行く。

罪を懺悔する者のため

主教は次の語を唱える。

我はわがとがを知る、わが罪は常にわが前にあり

主教 もしおのれの罪を言いあらわさば

会衆 神はまことにして正しければ、我らの罪を赦したまわん

主教 我ら祈るべし

主よ、主の民、もし罪を犯さば主に帰り、ここにて罪を懺悔し、祈り、願い、神の小羊の血にて洗いきよめられ、その信仰によりて義と認めらるることを得させたまえ。主イエスキリストによりてこいねがい奉る。アーメン

堅信式を受くる者のため

主教は次の語を唱える。

末の世に至りて、わが霊をすべての人にそそがん

主教 ペテロとヨハネ彼らの上に手をおきしに

会衆 彼らみな聖霊を受けたり

主教 我ら祈るべし

主よ、主は使徒たちに聖霊をくだし、また彼らが手をおく者に同じ聖霊を与えたまえり。願わくは我らの祈りを聞こし召し、ここにて堅信式を受くる者に聖霊をくだし、その宮となさしめたまえ。主イエスキリストによりてこいねがい奉る。アーメン

聖婚式をあぐる者のため

主教は次の語を唱える。

人を造りたまひし者、始めよりこれを男と女とに造りたまえり。ゆえに人はその妻と合いて、ふたりのもの一体となるべし

主教 神の合わせたもうものは

会衆 人これを離すべからず

主教 我ら祈るべし

とこしえにいます全能の神よ、願わくはこの所にて聖婚式をあぐる者、唯一の主によりて一体とせられ、愛と誠と操を保ち、信仰をもって子どもをそだて、健やかに、幸いに、命ながく、ついに天の御国に至ることを得させたまえ。主イエスキリストによりてこいねがい奉る。アーメン

聖餐を受くる者のため

主教は次の語を唱える。

われは命のパンなり、我にきたる者は飢えず、我を信ずる者はいつまでもかわくことなからん

主教 わが肉はまことの食い物、わが血はまことの飲み物なり

会衆 わが肉に食し、わが血を飲む者は我におり、我もまた彼におる

主教 我ら祈るべし

主よ、願わくはここにてキリストの尊きからだと血の聖奠を受くる者、まことの悔い改めと信仰と愛をもって、主のふるまいにあずかり、天の祝福に満たされ、罪の赦しと主の苦しみによりてきたるもろもろの恵みを受くることを得させたまえ。主イエスキリストによりてこいねがい奉る。アーメン

この聖堂にていのるすべての人のため

主教は祭壇に向かい次の語を唱える。

なんじらが、わが名によりて願うことは、我みなこれをなさん

主教 主よ、我らの祈りをききたまえ

会衆 我らの声を主の御前に至らせたまえ

主教 我ら祈るべし

ほめ奉るべき主よ、願わくはこの堂にて主に近づき、御手より受けし恵みを感じし、御名をほめ、罪を懺悔し、からだと魂とに必要なものを願う人々、みな信仰をあつくし、うやうやしく主を拝み、主に喜ばれ、主の良しとしたもう賜物を受くることを得させたまえ。これらのことをほむべき救い主イエスキリストによりてこいねがい奉る。アーメン

次に主教は牧杖を左手にもって至聖所の入口に立ち、会衆に向かつて言う。「アーメン」は主教だけが言う。

神の公会にて我にゆだねられし權威により、この堂を神にささぐ。今より後この聖堂を世俗のように供せず、神によりて清められし物は、公会の礼拝と聖奠のために用いらるるなり。我いま父と子と聖霊の御名によりて、この堂の聖別せられしことを宣言す。アーメン

主教は座につき、一人の司祭に聖別の証を朗読させ、終われば立てこれ祭壇の上におき、会衆に向かって言う。

主教 主なんじらとともにいますことを

会衆 主なんじの霊とともにいますことを

主教 主よ、エルサレムの宮のために
会衆 我らのうちになせしみわざを堅からしめたまえ

いつくしみ深き全能の神、願わくはこの聖堂につどえるなんじらを知恵と悟りの
霊にて満たし、正しき信仰を保たせ、望みと愛とをもてえ終わりまで耐え忍ぶこ
とを得させたまえ。またここにもいずこにても、なんじらの祈りをきき、なん
じらの罪を赦し、悪より救い、ついに天のうたげにあずかることを得させたまえ。
アーメン

つづいて聖餐式を行ない、次の特祷・使徒書・福音書を用いる。

特祷

いと恵み深き神よ、天も地も主おえいれ奉るに足らず。願わくはいつくしみをも
つて、この聖堂を御名の栄光のために用い、ここにて主に呼ばれる者のみちびき
霊と真理にて主を拝み、その行ないによりて主をほめたとうることを得させたま
え。父と聖霊とともに一体の神にましまして世々統べ治めたもう御子・我らの主
イエス・キリストによりてこいねがい奉る。アーメン

使徒書 黙二一章二―五

福音書 マタ二一章一 〇一―六

主教は祝福の前に次の祈りを用いる。

全能の神よ、願わくは御名の栄光のためにささげられしこの聖堂にて主に祈る人
の願いを聞こし召し、豊かなる恵みを与えたまえ。父と聖霊とともに一体の神に
ましまして世々統べ治めたもう御子・我らの主イエス・キリストによりてこいね
がい奉る。アーメン